

講義名	公共経営論				授業形態	
担当教員	植松 宏之	開講期・曜日・時限		後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
近年、成長社会から成熟社会への移行、政府財政の逼迫などを背景として、行政の効率的・効率的な運営が求められており、公共サービス分野への民間経営手法の導入が広がっている。そこで本講義では、まず「公共」とは何かを考え、『公共と私』の捉え方、公共の多様性、地域社会における公共の成立条件を理解するとともに、「公共の組織」と「公共のための組織」との組織論的な捉え方の違い、「政府」、「私企業」、「第3セクター」というそれぞれの組織の役割、効用と限界についても基本的な理解を深める。次に、「ガバナンス論」観点からの公共経営のあり方についての基本的理解を深める。具体的には、「ガバナンス」の概念と意義、ガバナンスの変容、拡張、曖昧化、そして私的政府の形成と組織間関係（パートナーシップ、ネットワーク、コラボレーション）について解説する。						
到達目標						
「公共」とは何かを考え、『公共と私』の捉え方、公共の多様性などを理解できるようになる。 「公共の組織」と公共経営のあり方を理解できるようになる。 「NPO」や「NPM(New Public Management)」といった新しいマネジメント方法を理解できるようになる。						
提出課題						
授業で取上げた主題に関して、それぞれの理解度確認のための課題演習（レポート）を予定している。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
次の授業の際に、全体的な講評や解説を行う。						
評価の基準						
平常点（各回のレポート、演習など）を30点、試験（確認テスト・2回分）70点として、評価する。						
履修にあたっての注意・助言他						
前半と後半に実施するレポート課題は、講義室での筆記とする。講義で配布した講義資料は、持ち込みを可能とするが、スマホ及びパソコンの電子機器の持ち込みは不可とする。講義で学習した際、資料に書き込むなどの態度を身につけて欲しい。 なお、定期試験は実施しません。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.公共経営論。		田尾雅夫	木鐸社	4500	4833224240	

その他		
授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間に紹介する。		
授業計画		
1 公共と公共の組織：「公共」とは何か？ 2 公共と公共の組織：「公共」の組織・政府という組織 3 公共と公共の組織：公共の組織と経営：第3セクター 4 ガバナンス(統治)：「ガバナンス」の概念と意義 5 ガバナンス(統治)：ガバナンスの変容、拡張、曖昧化 6 ガバナンス(統治)：私的政府の形成と組織間関係：パートナーシップ、ネットワーク、コラボレーション 7 ガバナンス(統治)：ローカル・ガバナンスと公共性概念の再構築 8 前半部のまとめと確認テスト 9 公共サービス：公共サービスとは何か、サービス提供の仕組み 10 公共サービス：供給のためのツール革新、そして適正な運用 11 NPO論（その1）：公共性とボランティア活動の生成、NPOの一般的特性 12 NPO論（その2）：企業間、企業とNPO、行政とNPOにおけるパートナーシップ 13 ニュー・パブリックマネジメント(NPM)（その1）：理念・ビジョン・戦略 14 ニュー・パブリックマネジメント(NPM)（その2）：補論 15 後半部のまとめと確認テスト		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
「公共経営」の言葉は、普段聞き慣れないと思うが、日常生活で行われているものである。 毎回の講義につき4時間程度、学習した知識を日常生活に照らしあて、行政、企業、NPO等がどのような活動をしているかを関心をもちて見ることにより、講義内容の理解を深めることを期待する。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
経済学科共通のディプロマ・ポリシーは「人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。」です。 この授業では、公共（行政）、企業（民間）、NPO等（中間組織）が協力して、現代社会の複雑な課題を成し遂げる方法を学習する。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり。梅田地区において、中間組織の代表を務めており、現場の実務について解説をする。		
備考		